

## 第1回嶺北地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日 時 : 平成22年9月2日(木) 14:00~17:00

場 所 : 土佐町基幹集落センター

### 1 議事

#### (1) 全体スケジュール等について

- ・ 産業振興計画フォローアップのスケジュール及び嶺北地域本部のスケジュールについて、地域本部から説明を行う。

#### (2) 地域アクションプランについて

- ア 平成22年度の取り組みの進捗状況について → 地域本部から説明
- イ 修正・追加等の案件について → 地域本部から説明
- ウ 観光・交流の取り組みについて → 地域本部から説明

#### 【意見交換】

(座長) 地域アクションプランについて、説明いただいた。これから質疑に入りたいと思うが、各プランの現在の取り組み状況、観光・交流やプラン全体(の取り組み)についても意見をいただきたいと思う。

- ・ (地域アクションプラン No. 16) 「大型製材工場の誘致による地域材の利用の促進」について、高知県は84%が森林で、材(森林資源)が蓄積されている。これまで情報収集を行ってきており、また今後、予定もあるとのことだが、1年でも早く誘致してもらいたい。どの程度、話が進んでいるか、構わない範囲で聞きたい。

→ 私どもの方(地域本部)で、直接その協議の場に参加していないので、十分な情報を知り得てないが、誘致企業とは、協議、勉強会を行っている。その中で、同企業は、他の地域の工場や経済の状況等を睨んでの話をされているようだ。(県では)シミュレーションを行い、また、どういう施設整備が必要かということ等も含め、話をしていると聞いている。しかし、具体的な話(進出の時期など)には至っていないという状況である。

- ・ はちきん地鶏に係る産業振興推進総合支援事業費補助金については、審査を受け、採択予定との話をいただいた。見通しとしては大丈夫ということでしょうか。

→ 採択(の決定)は正式な文書によるが、審査会での(委員との)やりとり等から判断すると、採択になる(と考えている)。ただ、今回、審査の中で、運営する会社自体が損益計画等の各月ごとの計画を立て、それとの比較なども行い、きちっと経営を見ていくこと、また、事業ベースで見えていくことが必要との意見をいただいた。

また、ブランド化について、現在、はちきん地鶏は、かなり引き合いも出てきていると聞いているが、売っていくにあたっては、いろいろな方の意見も聞き、進めていくことが必要との意見もいただいた。これらのことについて、(審査会の)意見が付される格好で採択されるだろうと思っている。

- ・ 行政側としては、一生懸命取り組んでいるが、(民間)組織を育てていることから、行政が勝手に、いくらでも、どうこうと指図もできない面もある。村の支援は、できる限り行い、振興につなげていこうと考え、取り組んでいるので、ぜひ支援をお願いしたい。

→ はちきん地鶏については、県も村も力を入れて進めており、これを大川村、高知県の一つの産業として(育つよう)取り組んでいただけたらと思う。その芽は出てきているという印象は持っているので、応援し、いい方向で進めていけたらと思っている。東京のアンテナショップでも商談会等が行われるということで、売り込みもできていく状況にもなっており、条件等は整ってきていると思うので、それぞれが役割をきちっと果たしていくことが大事だと思う。

- ・ 県（職員）が知事の指示等で一生懸命、地域を発展させなければと取り組んでいることに感謝している。それぞれの地域に行政の課題があり、本来なら首長がここで、県の取り組むことに対して質問しなければならぬこと自体がおかしいと思う。裏を返せば、首長は、県が取り組むことにおんぶに抱っこで、自分たちは余り努力していないのではないということにもなってくると思うし、首長が事業の内容をあまり知らないということになる。県が取り組むからという返事がよくあるが、そういうことでは、いくら県が力を入れて取り組んでも実現は難しいと思う。

森林県である高知県は一次産業を生かして、いかに地域を発展させていくかということが一番大事ということで、昨年、嶺北4町村の首長と一緒に、森林整備について知事をお願いに行った。それにより、国土保全となり、早明浦ダムの濁水問題とか、いろいろな問題も解決していき、また、雇用の促進にもなるということをお願いをしたが、お願いのしぼりなしで、その後、その話に対して各首長もあまり熱があるふうではない。

高齢化していく中で、労力を構えることも大事だと思う。今、嶺北で一番何が必要かといえば、人的な資源を供給していくことではないかと考える。（現在の状況で、）いろいろな事業を実施しても、生産する労力がなければ、一時的に3年、5年はできるかもしれないが（持続は難しい）。持続性がなければ、投資をしても、ふるさと創生とかいって竹下首相が実施したときと一緒に。バラマキ行政をして、いろいろな施設等が荷物となる。また、（大豊町にある）21世紀センターは、「嶺北は一つ」ということで、各首長間の意思統一はできたが、議会での反対があった。その当時、いろいろな施設整備がなされたが、廃墟に等しいという実態もある。そういうことを考えたとき、県主導の取り組みで、今、補助金による支援を受け施設はできていくが、本当に将来の嶺北につながるのかと、疑問を持っている。嶺北4町村の首長が、本当に意思統一をし、これからの嶺北を良くしていこう、守っていこう、そういう気持ちにならない限りは、何をやっても無理だと思う。

今、高齢化率が大豊町は53%になっている。土佐町などでも40%や50%に近いのではないかと。（その状況の中で）ほとんどの人が年金生活をしているが、（この中で）補助事業を実施し、収入を得て、地域経済がそれによって潤ってくるのかという問題があると思う。大豊町は、後期高齢者が多く、ユズ産業なども後期高齢者がユズをちぎり出荷しているが、5、6年したら、ユズを取って出荷をする人口は今の3分の1になるという状況である。その方（ユズ農家）の収入が良い場合、200万円、300万円ということもあるようだが、その人たちが実際にお金をどうするか。一般の市場経済には全然回らずに貯金をし、生活は年金です（というように）、補助金の支援により実施した事業で得た収入は全部貯金する。こういうことになると、嶺北の地域経済は、全然、発展しなし、潤ってこないと思う。それ（補助事業）を実施するには受ける方の、嶺北の4町村の首長もしっかりと受け止めて、県が一生懸命やっていることを生かして、これからの嶺北地域を守っていく。そういう気持ちで取り組んでもらいたいということをお願いをしておきたいと思う。

（座長）過去のいろいろな取り組みの経緯からも、今後、地域の連携力をもっと強めるべきだという指摘もいただいた。まさにそのとおりだと私たちも受け止めており、県に頼るだけでなく取り組まなければならない。

先ほど話のあった大型製材工場（の誘致）については、高知県にとって非常に大きな課題でもあるが、嶺北にとっても（誘致に向けた進捗を）待望する課題であり、（嶺北が連携するとともに）県との連携を図っていく。高齢化社会の話があったが、医療や福祉の問題も嶺北それぞれの町村だけでは完結しない問題である。嶺北地域の連携こそが、住んでいる人たちが豊かに暮らすといった面でも非常に大事な課題であり、今後一層、連携するように我々も努力していきたいと思う。

→先ほどの前段の話で、首長が事業の内容を承知してないということは、ないと思う。（総合）補助金（により支援した事業）のフォローについては、しっかり行っていかなければならない。（総合）補助金を導入するにあたっては、事業をどのように進めればいいのかということについての審査も受け、また、（事業採択・交付決定後は、）それをフォローアップしていく中で、いろいろな方の意見を聞くことにより、補助金が生かされるように、しっかり取り組むことが必要だと思っている。

補助金自体は一時的なものであり、当然、それぞれの事業の実施主体が、それを活用し、事業として組み立てていく努力をしていただくことが大事と思っている。お互いに、もたれあうことではなく、きちっと経営、あるいは地域を振興できるような取り組みとして進めていくように努力していくことが重要だと思う。

- ・(先ほどは、) 県は一生懸命取り組んでくれているが、首長の努力が足りないということを申し上げた。首長は、県がたじたじするくらいの計画を立て、大豊町はこうする、本山町はこうする、土佐町はこうする、また嶺北一体としてこうするから、県の方で予算を組んでくれと、前向きに力を入れて取り組んでもらいたいということをお願いしておく。

→一次産業を生かした産業振興を、との意見についてであるが、今回の計画は、本県の強みである一次産業をどのように生かしていくかということを中心に、具体の個々の細目の事業に至るまで、徹底的に整備をしてきた。計画全体が一次産業に特化しているのではないかという意見も商工業の分野の方からはいただいている。一次産業については、特に力を入れる方針で臨んでおり、その点をご理解いただきたい。

次に、持続性を持った取り組みを、との意見についてであるが、総合補助金は産業振興として、いかに地域に、将来に亘って経済的な効果が及ぶのかということを探択の際の視点として考えている。そのために、少し審査が厳しいとの意見もあるが、外部の識者にも入っていただき事業の継続性についても審査をしていただいている。県下全域で総合補助金については、今の段階で、去年から今年にかけて70数件の事業の採択をしている。その中で、この1年半を見ると、県下全域各7ブロックの中でも、進み具合に差ができていくという感じがしている。嶺北地域については、実際のプロジェクト、各町村における事業内容は非常に濃いものがあり、具体の事業として形になってきていると、非常に心強く思っている。さらに、その事業を継続させるために、県からも提案させていただきたい点が多くつかり、それらの部分については、折に触れて各首長とも密に連絡を取らせていただいている。そういう形で今後とも進めていきたいと思うので、よろしく願いたい。

- ・林地残材の件について、状況報告と県に一つお願いをしておきたいと思う。この件については、チップ関係の企業が、道路のバイパス計画の関係で移転することとなり、移転先として、(森林) 資源が多い嶺北に決めたということである。工場を建てることについて、いろいろな条件、(例えば) 騒音の関係とか、あるいは粉塵の関係等で人家から約300m以上離れていなければならないというようなことがあった。嶺北(地域内)で(適地を)探している中、土佐町内の国有地と財産区の一部を造成すれば7反5畝から8反ぐらゐの面積が確保できるということで、移転企業の社長、専務にも現地を見ていただいた。その結果、面積も含めて取り合わせ道路等の条件を整えば、そこに進出したいとの話になった。この国有地は四国森林管理局の所管であることから、森林管理局長に会い説明も行い、理解を得た。

造成については、土佐町の西の方において、国道439のトンネルを計画しており、県土木(事務所)で、その残土処理場として検討してみるという話になった。しかし、残土が出るのが平成24年度以降であり、平成23年度には工場を建てたいとの移転企業の考えとの調整が必要となり、協議の結果、国道沿いに仮置きしている残土の活用により、当面、平成22年度に、工場建設に必要な3反ぐらゐの面積が確保できるのではとの話になった。残土処理に関しては県土木の協力を得、(県道からの)取り合わせについては、林道の直線改良も含めて、土佐町が実施することで、話が大体整った。そして、平成24年度以降に、トンネルの残土処理を活用すれば7反5畝から8反になるということになった。移転企業では、工場を建てるに当たり、支援事業を(県)木材産業課に申請したが、なかなか審査が難しく、国有地について、私が局長とも話をし、完全に話ができていないのに、森林管理局と土佐町の話し合いは完全にできているか、覚書があるかという(確認の)話もあった。産業振興計画の中にバイオマス関係も含まれており、県は連携し、早く処理をする努力をしていただきたい。移転が順調に進めば、林地残材の活用が図られるので、非常に期待されている。

同時に畜産振興面からオガクズについて、オガクズは製材業者では燃料に使うが、(敷き料への)活用を移転企業にお願いしている。しかし、現状では、出てくるものがオガクズのように細いものではなく、かなり粗いということで、これを敷くと、特に酪農家であれば(乳牛の)乳房に傷がつくというようなことになる。そこで、できれば併せて、そこでオガクズも製造していただきたいということで、土佐町で、(何かの支援措置のもとに、)オガクズ製造機を構え、移転企業にお願いし製造してもらおう話を進めている。このことは、嶺北地域の畜産振興の話であり、どうしても、これは必要であり、努力をしていきたいと思っている。間違いなく約束はでき、前に進んでいるので、よろしく願っておきたい。

→先ほど委員の言われた覚書の件については、以前、少しその話をしていたが、その後、その件は了解したと思っている。確認のうえ、そういうことがないようにするようにしたいと思う。

(座長) 他に何かないようであれば、地域アクションプランについての意見等は、ここまでとしたい。進捗状況とスケジュールの修正について、内容確認と、今までの質問も含め、承認をお願いしたい。

《委員確認、承認 賛同》

(座長) 地域アクションプランの取り組みについては、内容確認と承認をいただいた。

### (3) 産業成長戦略について

- ・平成22年度の取り組みの進捗状況等について、産業振興推進部（地産地消・外商課）、観光振興部（観光政策課）、商工労働部（雇用労働政策課 雇用対策室）から説明を行う。

#### 【意見交換】

(座長) 説明いただいた各内容について、意見等があれば発言をお願いしたい。

・先日「まるごと高知」に行き、見させていただいた。印象を少し話させていただくと、店舗の面積が狭いのかなということ、また、本山町の商品も置かせていただいております、それを見に行ったが、どこに置いてあるか分かりづらかったという印象であった。ディスプレイをもう少し考えていただきたいということを感じて帰ってきた。テストマーケティングの情報をいただいたので、いろいろこれから活用させていただきたいと思うので、よろしくをお願いしたい。

→「まるごと高知」について、貴重なご意見をいただき、ありがたく思う。売り場では、商品をいかに見せるかと腐心しており、商品の陳列、また、商品・特産品の紹介についてパネルを貼るなどいろいろな工夫を可能な限り行っている。しかし、ご指摘のとおり、例えば個々の商品について、説明がどのようなかということもあり、ポップを充実していきたいと思っている。消費者に手に取っていただくには、その商品の特徴、例えばユズ製品の中でもこの商品はどういう特徴があるかといったことが分かっていたらいいような形でないといけないので、ご指摘のどこに商品があるのか分かりづらかったということも含め、日々改善をしていながら商品説明、棚の工夫などを行っていきたいと思っている。

(座長) 県の支援に対する要望等についても具体的にあれば、お話いただけたらと思う。

なければ、本日委員の皆さまからいただいた意見、それから県から報告しました各産業分野の方向性も含めて、今後事務局で更に精査をしていただき、次回につなげていくことにしたいと思う。以上で、議事を終了させていただく。